

プログラムの特色

- ・適切な感染予防を行う上で、全職員（事務職から清掃、リネン等外注業者を含む）が、基本的知識を共有していることが必須です。これを、基本編としてまとめました。
- ・感染対策の世界では、従来の感染制御（infection control）から感染予防（infection prevention）へと、大きく潮流は変化しています。世界保健機関（WHO）は、感染予防の基盤である手指衛生をなすべきタイミング（5つの場面）を分かりやすくガイドラインとして世界中に発信しており、このような流れも紹介しています。
- ・上記基本編に加え、実務編では、感染予防（infection prevention）の視点で積極的に取り入れられている「ケアバンドル」を、4つのテーマに分けて紹介しています。エビデンスレベルの高い予防策を複数“束ねて（バンドルして）”プロセス管理を行うことで、感染予防に大きな効果を発揮している内容を、ご紹介しています。
- ・内容の裏付けとなっている根拠を出来るだけ明示できるよう文中に注記を付し、末尾に参考文献一覧として載せています。
- ・高度化、専門化が進む多様な医療現場で、効率的に学習し修了率を上げられるよう、各テーマの所要時間を30分前後（含むテスト）で終わられるように工夫しています。要点は必ず押さえられるよう、各テーマの冒頭に、学習目標のポイントとして明示し、知識を確認する目的でテストを用意しています。学習者は、自身で理解度を確認すると同時に、組織の管理者は、全職員の履歴管理データにアクセスし、その運用状況を分析することができます。
- ・日進月歩で進化する感染予防の最新情報の提供を、eラーニングの特色を生かし、受講者の方々には、webで適宜、ご案内し、その内容によっては、コンテンツの追加修正を行なっています。
- ・本プログラムは、パワーポイントとナレーションというシンプルな構成にこだわることで、制作コストを抑制し、受講費用の低減を図り、出来るだけ多くの方々のご参加をいただけるように努めています。

プログラム 『総合編』 の内容 4時間40分（含むテスト）

I. 基本編： 2時間40分（含むテスト）

1. 標準予防策と感染経路別予防策

米国の感染対策の歴史

CDC 隔離予防策の考え方

CDC 隔離予防策の実際

CDC 隔離予防策 2007年改訂版について

2. 手指衛生

なぜ手指衛生が医療関連感染予防のために最も重要な対策なのか

手指衛生のタイミングと手順

手術時手指衛生

3. 滅菌、消毒、洗浄

滅菌と消毒 スポルディングの分類

滅菌の定義と方法 滅菌を必要とする品目

高水準消毒の定義と方法、高水準消毒を必要とする品目

低水準消毒の定義と方法、低水準消毒を必要とする品目

洗浄方法

4. 医療従事者のための職業感染防止

血液媒介病原体とそのリスク

血液媒介病原体による感染症の予防

II. 実務編： 2 時間（含むテスト）

5. 人工呼吸器関連肺炎（VAP）の予防

VAP の影響

VAP 発生の 4 つの要因

VAP の予防バンドル（IHI・日本集中医療学会）

その他の VAP 予防策

6. 末梢および中心静脈カテーテル（血管内カテーテル）関連感染症の予防

血管内カテーテル関連血流感染症の影響と感染経路

中心静脈カテーテル関連血流感染症（CLABSI）の予防

中心静脈カテーテル関連血流感染症（CLABSI）予防バンドル

末梢静脈カテーテル関連血流感染症の予防

7. カテーテル関連尿路感染症の予防

カテーテル関連尿路感染症（CAUTI）の影響は何か

尿路カテーテルを留置している患者にどのように尿路感染症が起るのか

カテーテル関連尿路感染症（CAUTI）発生のリスク因子

カテーテル関連尿路感染症（CAUTI）予防バンドル

8. 手術部位感染症（SSI）の予防

SSI の定義

SSI の影響

SSI はどのように起るのか

SSI 防止対策の要点

SSI 防止対策の要点（参考）

* 講義内容には変更がありうることをご了承ください